

富良野市長インタビュー



北 猛俊 市長

1954年生まれ。北海道空知郡中富良野町出身。
富良野高等学校、北海道拓殖短期大を卒業後、1975年4月より実家の農業に従事。
1995年4月に富良野市議会議員に初当選。
2007年5月から17年12月まで富良野市議会議長を務め、
2018年5月に富良野市長に就任。現在2期目

本日はアルペンスキーワールドカップ開催やテレビドラマ「北の国から」で有名な富良野市をご訪問しました。

岩尾専務)

富良野というと真っ先に広大なラベンダー畑が思い浮かぶのですが、富良野市のご紹介をお願いします。

北市長)

市のキャッチフレーズは「へそとスキーとワインのまち」です。本市は北海道の中心に位置し、北海道のへそといわれています。人口は約2万人、基幹産業は農業と観光です。盆地ですから昼と夜の温度差が大きく、このため糖度の高い野菜や果物が収穫できます。道内で栽培される野菜のほとんどを作ることができ、道内の農産物の供給基地と位置付けられています。「ふらのワイン」だけではなく「富良野メロン」のブランド化に力を入れています。観光面で申しますと、昭和52年から平成7年までにアルペンスキーのワールドカップを計10回開催し、平成18、19年にはスノーボードのワールドカップを開催しています。これらの開催を通して世界的に有名になりました。言うまでもなく、スキー場の開設が冬季観光に大きく寄与してきました。昭和53年から放映が開始されたテレビドラマ「北の国から」で、高い山々に囲まれた盆地の風景、十勝岳連峰の雄大な景色や景観が全国に紹介され、加えて、国鉄のポスターにきれいなラベンダー畑が使われたことで、夏の観光も盛んになりました。

岩尾専務)

観光は夏と冬ではどちらが盛んでしょうか？

北市長)

令和5年度で申しますと、観光入込客の数は約190万人、4月から9月までの上半期が約120万人、下半期が約70万人ですから、夏季のほうが多いですね。また、旭川から車で1時間、札幌からも2時間で来ることができますので、日帰り観光するお客さんも多いです。宿泊客を増やす努力をしています。

岩尾専務)

市の統計資料を見せていただきましたが、宿泊客は約50万人で上半期が約30万人、下半期が約20万人ですね。入込数の比率とあまり変わりませんが、宿泊延べ人数では約77万人のうち、上半期が約37万人、下半期が約40万人と逆転しています。手前味噌かもしれませんが、スキー客は比較的長期滞在される事がこの統計資料からも窺えますので、市としてもスキーの振興にぜひお力添えいただきたいと思います。ところで、富良野のスキー場の特徴はいかがでしょうか。

北市長)

富良野スキー場はスキーのワールドカップが開催できるレベルの、日本でもトップクラスのスキー場です。そのうえ、市街地からの距離が約3キロメートル、車で5～6分の移動時間であり、歩いて移動することもできる距離です。このようなスキー場はあまりないと思います。雪の水分含有量がとても少ないですから、ふわふわでサラサラしています。近年、このふわふわでサラサラな雪を「ボンチパウダー」と呼び、ブランド化する取り組みを進めています。雪の専門家と共に、令和4年から、雪質の良さを数値化して他のスキー場と差別化し、分かりやすく見える化する取り組みを実施しています。



岩尾専務)

ところで、インバウンドの状況はいかがでしょう。

北市長)

以前はオーストラリアからのスキー客、東南アジアから雪に親しみたい客層が多かったのですが、ヨーロッパやアメリカからの客層も増えてきました。令和5年度で申しますと、宿泊者数は過去最高の約13万人、そのうち上半期が約5.7万人、下半期が約7.3万人です。延べ宿泊人数では約25.6万人で、上半期約8.7万人、下半期が約16.9万人です。地域別で見ますと、アジアからのインバウンドは夏季も冬季も来ていただいております、宿泊延べ人数は宿泊者数の約2倍、オーストラリアやヨーロッパからのインバウンドは冬季に集中しており、宿泊延べ人数は宿泊者数の約3倍になっています。インバウンドは10年前と比べますと、約4倍になっています。令和5年の延べ宿泊者数の多い順で申しますと、台湾、オーストラリア、香港、シンガポールまでが4～5万人、韓国、アメリカ、タイ、中国が1～2万人となっています。

岩尾専務)

インバウンドの招致活動はいかがでしょう。

北市長)

招致活動は一自治体で行うよりも、広域で行う方が効果があります。これはインバウンドに限りませんが、オール北海道や上川地区共同で招致活動に取り組んでいます。特に、スキー場間の連携として、旭川やトマムと共同で共通リフト券を発行し、「パウダーベルト」としてブランド化に取り組んでいます。雪質は他のどこにも負けません。それぞれの地区でスキー場の特徴はかなり異なりますので、長期に滞在し周遊して違いを楽しんでいただきたいです。

岩尾専務)

インバウンドの受け入れ体制は
いかがでしょう。



北市長)

これまでに多くのインバウンドの皆様を受け入れてきていますので、言葉の問題については、宿泊、飲食等それぞれの事業者で対応をされています。市としましては、インバウンドの皆様の「困りごと」に多言語で対応できるように努めています。二次交通につきましては、運転手の人手不足でタクシーの確保が難しい状況から、スキー場との巡回バスに力を入れています。北の峰地区は市街地から3キロメートルの距離ですから、インバウンドの方は歩いて往来する方も多くいます。しかし、距離の離れた宿泊施設もありますので、観光協会と連携して午後9時頃まで巡回バスを走らせています。長期滞在の方には、スキー以外にも演劇工場での鑑賞や太鼓、獅子舞などの郷土芸能も味わっていただきたいです。

岩尾専務)

ニセコのヒラフ地区等では外資の進出で地価が高騰し過ぎ、次は富良野だという報道もなされています。既に北の峰地区では相当に地価が高騰しているようですが、外資の進出についてはどのようにお考えでしょうか。

北市長)

本市にはまちづくりの基本計画があります。この基本計画に沿ったものかどうかで判断することになります。北の峰地区は居住地域と宿泊地域が近接しています。インバウンド旅行者からは、地域住民との距離感や繋がりに価値観を感じている、といった声もいただいています。宿泊施設が増えることは歓迎しますが、景観や環境保全など市の計画に沿っているかどうか、また、地域の方と協調ができなければ持続可能なものとはなりませんので、これらで判断します。

岩尾専務)

土地の売買は規制できませんね。

北市長)

土地の売買は市が規制することはできませんが、景観条例で建造物の規制はできます。どうしても従っていただけないような場合には、この事業者は市の方針に従っていただけないということを公表し、市民の判断を仰ぐという方法もあります。他の自治体の例から見ても、事業者にも地域と協調することの重要性はご理解いただけるようです。

岩尾専務)

話は変わりますが、当協議会はスキーやスノーボードの普及を通じたスノースポーツの振興にも力を入れています。小中学校でのスキー授業や大会誘致などの取り組みをお聞かせください。

北市長)

小中高校でスキー授業を実施してありますが、いろいろな制約もあり、年2回くらいに留まっています。富良野スキー場のご協力のもと、小学生のリフト代は無料となっており、中学生も市が助成する形で無料としています。大会誘致については、上川地区で冬期のオリンピックを誘致したいという大きな夢を持っています。そのため、まず、ユース大会の誘致を考えています。その第一歩として、ワールドカップの開催に向けて準備委員会を年内に立ち上げたいと思います。国際大会を開くためには資金と人材がカギになります。資金集めに関しては市も積極的に取り組んでいきます。クラウドファンディング、ふるさと納税、企業の協賛等いろいろあるでしょう。「人」は全日本スキー連盟との連携が不可欠であり、富良野スキー場と相談をしています。



河野常務)

先ほどお話がありましたが、富良野スキー場では、過去に何度もワールドカップが開催されており、その都度、競技役員としてお手伝いに来ていました。とても懐かしいです。スキー大会は天候に左右されます。岩手県雫石の世界選手権では悪天候のため想定外のことが次々に起こりました。ただ、その経験が長野オリンピックに生かされ、悪天候の中、何とかやり遂げることができました。競技役員の確保と養成は非常に重要です。

岩尾専務)

最後に宿泊税についてお話をお聞かせください。オーバーツーリズムの問題もあり、観光対策の財源として宿泊税を既に導入されている自治体もありますが、北海道でも道庁を中心に10数か所の市町村が検討をされているとお聞きしています。いかがでしょうか。

北市長)

観光協会をはじめ市内関係団体と相談をしながら検討を始めましたが、コロナ禍で一時中断していました。検討を再開し、令和8年度の導入を目指し現在、パブリックコメントの段階です。導入を表明している北海道と歩調を合わせていますが、仮に市単独でもこのスケジュールで実施する予定です。段階的定額制での導入で提案しており、宿泊料金2万円未満で200円としておりますが、「仕事で滞在し安い宿を探している方にとっては負担が大きい」というご意見もあり、パブリックコメントでの意見などを踏まえて最終決定することになります。

岩尾専務)

本日はお忙しい中貴重なお時間をいただきありがとうございました。スノースポーツ振興のためにも、アルペンスキーのワールドカップ開催を是非お願いします。